



▲コロナ後初、4年ぶりの開催。「以前のように皆さんに来ていただけたらありがたいです」

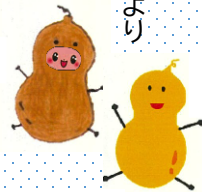
小浜反町にある万人子守地蔵尊の例大祭が今年5月3日・4日の2日間にわたり開催されます。万人子守地蔵尊の歴史をはじめ、例大祭への思いや今年の例大祭の内容について、総代の坂本嘉子夫さん（写真中央）、伊東秀雄さん（左）、祭典執行委員長の桑原恒雄さん（右）にお話をうかがいました。

「四年ぶりの開催となる万人子守地蔵尊例大祭。少しでも多くの方に来ていただきたいです」

かわら版

いわしろう

集落支援員だより



◆万人子守地蔵尊について

万人子守地蔵尊の起源は数百年前に遡ります。古来より子宝祈願や子どもの健やかな成長を願い、子地蔵様を貸し出しする分尊分霊の靈験あらたかな地蔵尊として知られていました。



▲万人子守地蔵尊の本殿

最初のご本尊様は身の丈四二センチの素朴な木彫りのお姿でした。江戸時代後期の洪水により流され、宮城県荒浜河口にたどり着きましたが「本来あるべき場所にお返ししよう」と荒浜の人々によって再び小浜の地に送り届けられたという逸話が残されています。また伊達政宗の父、輝宗公が年若い政宗の健康と武運を祈って、お参りしたとも伝えられています。長年子宝に恵まれなかった人が、ここにお参りして子どもを授かったという話や、子地蔵様を借り受けしている人からは「お地蔵様が身代わりになって子どもを護ってくれた」などというお手紙も届いています。

◆皆さんへのメッセージは？

かつて例大祭に三万人以上が全国から訪れたこともありすが、



▲石造りのご本尊。上の厨子の中には木彫のご本尊を安置

コロナ禍でしばらく開催を見合わせてきました。反町の氏子人口の減少や高齢化により例大祭が三日間から二日間に変更後、今回初めての開催となります。久しぶりなので、以前のように人が集まってくださるか不安もあります。これまで多くの人々の願いや思いを受け止めてきた歴史があり、責任の重さも感じていますが、来てくださった方に喜んでもらえるよう万全の準備を進めてまいります。皆さん、ぜひ足を運んでください。

万人子守地蔵尊例大祭 「当日の見どころ&楽しみ方」を紹介しします！



◆稚児（ちご）舞い：地元の子どもたちによる舞いはとても可愛らしく圧巻です。
3日/14時～ 4日/10時～、14時～

◆子地蔵様の里帰りご供養&祈願祈祷（借り受け）
借り受けしている子地蔵様の里帰りをはじめ、家内安全やお子様の成長を祈願して祈祷を行います。また、新たに子地蔵様を借り受けしたい方の申し込みも受け付けます。

◆露店：子地蔵様の着物、イカ焼き、綿アメ、焼きそば、から揚げほか20店舗以上が軒を連ねます。

◆地蔵通り散策：県道沿いの家の前には、それぞれ違う表情や姿の石造りのお地蔵様がいます。



▲身代わり地蔵のお守りも販売しています



▲お地蔵様は、どれも表情が豊かです！



▲稚児舞いは、例大祭の一番の見どころです

🌸「母の日」の贈り物に🌸 ~カーネーション販売のお知らせ~

二本松実業高校安達東校舎の高校生の皆さんが育てたカーネーションを、今年も下記日程で販売します（なくなり次第、終了となりますので、お早めにおいでください）。

- ★日時/5月9日(火)～ 9時～16時
- ★場所/二本松実業高校安達東校舎
- ★料金/1鉢 500円
- ★問合せ先/二本松実業高校 安達東校舎
- ☎0243-55-2121
- 草花担当/菅野(かんの)



岩代支所の新職員を紹介しします〜その①

「岩代に初めて着任し不安もありませんが、住民の皆さんに親しんでもらえるよう前向きに取り組んでいきたいです」

岩代支所地域振興課長
騎西(きさい)東五さん

Q これまでの経歴や岩代の感想は？

旧二本松市内で生まれ育った私にとって岩代地域とは「桜の名所・名木が沢山ある地域」というイメージでした。本庁の観光課にいたときには、桜の苗木一万本を市民の皆さんに配布する事業に携わり、岩代地域を訪れた記憶があります。

合併後、岩代支所の地域振興課長には、ずっと旧岩代町出身の職員が着任してきましたので、私が初めての旧岩代町以外出身の地域振興課長となります。岩代の地名も、住民の皆さんの名前もイチから覚えなければ

ばならぬ状態です。正直言って不安の方が大きいですね。岩代支所勤務も初めてですので、最初は緊張しましたが、とても明るい雰囲気なので救われています。



▲岩代の桜の名所、合戦場

Q 新しい職場での抱負は？

目下の目標は、できるだけ早く住民の皆さんの名前や顔、地名などを覚えることです。コロナ禍など不測の事態に見舞われた昨今でしたが、岩代地域の住民の皆さんが、安心して暮らしていけるよう魅力ある地域づくりに取り組みしていきたいです。

岩代地域に関してはほぼ初心者の私ですが、精進して参りますのでよろしくお願いたします。

★騎西さんの魅力に迫る★

☆趣味・休日の過ごし方は？

▶趣味は映画鑑賞。10年ほど前から映画館で観る映画の面白さに目覚め、福島市の映画館に通っています。ジャンルにこだわらず、レビューの高いものを選んで観るのが楽しみになっています。

☆子どもの頃、なりたかったのは？

▶プロ野球選手(野球部だったので)

☆これからやりたい事は？

▶ウォーキング、奥さんと飲み歩き

岩代の歴史シリーズ
両属の将 石川弾正の生涯①

石川弾正顕彰会事務局長
日下部 善己

一 「黄金の鳥」伝説と殿様

「ここは山間の小さな町だが、昔は石川弾正というお殿様がいた」「裏の館山がお城で『石川様の坪石』がある」「残念ながら伊達政宗と戦って敗れた」

近所の大人たちは当地のふるさと自慢を折に触れて子どもたちに語って聞かせた。

子どもたちの間では、大きな石が連なる「石川様の坪石」(石庭)の周りを息を継がずに三度回ることが出来れば黄金の鳥が出るという話が先輩から後輩へとまことしやかに語り伝えられた。館山に登っては誰もがこの黄金の鳥に何度も挑戦した。

戦国時代の塩松(安達郡のうち、阿武隈川東の地域)の東部(今の二本松市岩代・東和地区の中・東部、川俣町山木屋)を領有した戦国武将、百目木城主石川弾正光昌は、当地域の基礎を築いた郷土の偉人としてよく知られている。子どもたちにはキャラクター「いしダンくん」でも馴染みである。しかし、四四〇年ほど前の人物なのになぜそんなに親しまれているのだろうか。

その理由は、弾正光昌が領主の座を失ってから旧家臣団や旧領民は塩松東に留まりこの地を豊かに育んだこと、そして今も地区住民みんなが弾正や百目木城について語り継いでいることである。石川弾正顕彰会による、石川氏の歴史等の郷土史研究やふるさと再発見活動もその一つである。



▲石川様の坪石。黄金の鳥伝説が語り継がれた場所。現在はうっそうとした雑木林になっているが、昔は子どもたちの遊び場だった

さらに、弾正の子孫は江戸初期に相馬藩に仕えたが、石川家では毎年お盆に弾正墓へ墓参りに訪れている。江戸期の『相生集』「百目木弾正墓」は「百目木と名目津の間川岸にあり、その子孫相馬にありて毎年七月に参詣して法燈を捧ぐ」というと記録している。

明治中期には、菩提寺の百目木江月山長泉寺で弾正没後三〇〇年祭が相馬の石川家によって執行された。梅田俊苗住職の下、百目木在住の旧家臣団子孫も参列した。

同じく昭和五一年には、名目津地区民の協力を得て弾正墓(名目津壇)に墓標を建立した。

旧領主家と旧家臣団・旧領民との交流は何世紀にもわたって続いてきた。